

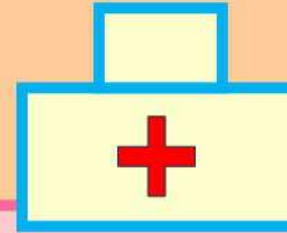
熱が出たとき



子どもの発熱の多くは、**感染症**によるものです。体温を上げることで、病気の原因（病原体）をふやさないようにしたり、抵抗力を高めたりしています。そのため、 39°C を超える高熱であっても、元気であれば、無理に熱を下げる必要はありません。

熱が高くなると、脳にわるい影響があるのではないかと、けいれんを起こすのではないかと、心配になる方も多いと思います。

大人ではめったに経験しないような 40°C 以上の高熱をみると、あせってしまうのは当然ですが、**高熱が脳に影響を及ぼすことはまずありません**。脳に影響があるかどうかは、病気の種類によって異なります。



- + 3か月未満のお子さんの発熱
- + 顔色がわるい
- + 泣き方がいつもに比べて極端に弱々しい
- + 元気がなく、ぐったりしている

こんなときは **すぐに受診を**

家庭で気をつけること

ふくそう 熱が上がりきったら（寒気が止まり、うっすら汗をかきはじめたら）、**少し薄着**にさせてください。

解熱薬 服装を調節してみても、きつそうにしている場合や、機嫌がわるい場合には、症状をやわらげるために、**解熱薬（坐薬、飲み薬）**をつかってみてもよいでしょう。

解熱薬をつかって、ほとんど下がらないこともあります。体が楽になればよいと考えてください。どちらにしても、**少しずつ水分や食事**を摂取させましょう。



神戸百年記念病院 附属

すこやかクリニック

文献：医歯薬出版株式会社

「ママ&パパにつたえたい

子どもの病気ホームケアガイド」より